



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 282

2020/8/01

今月の一枚

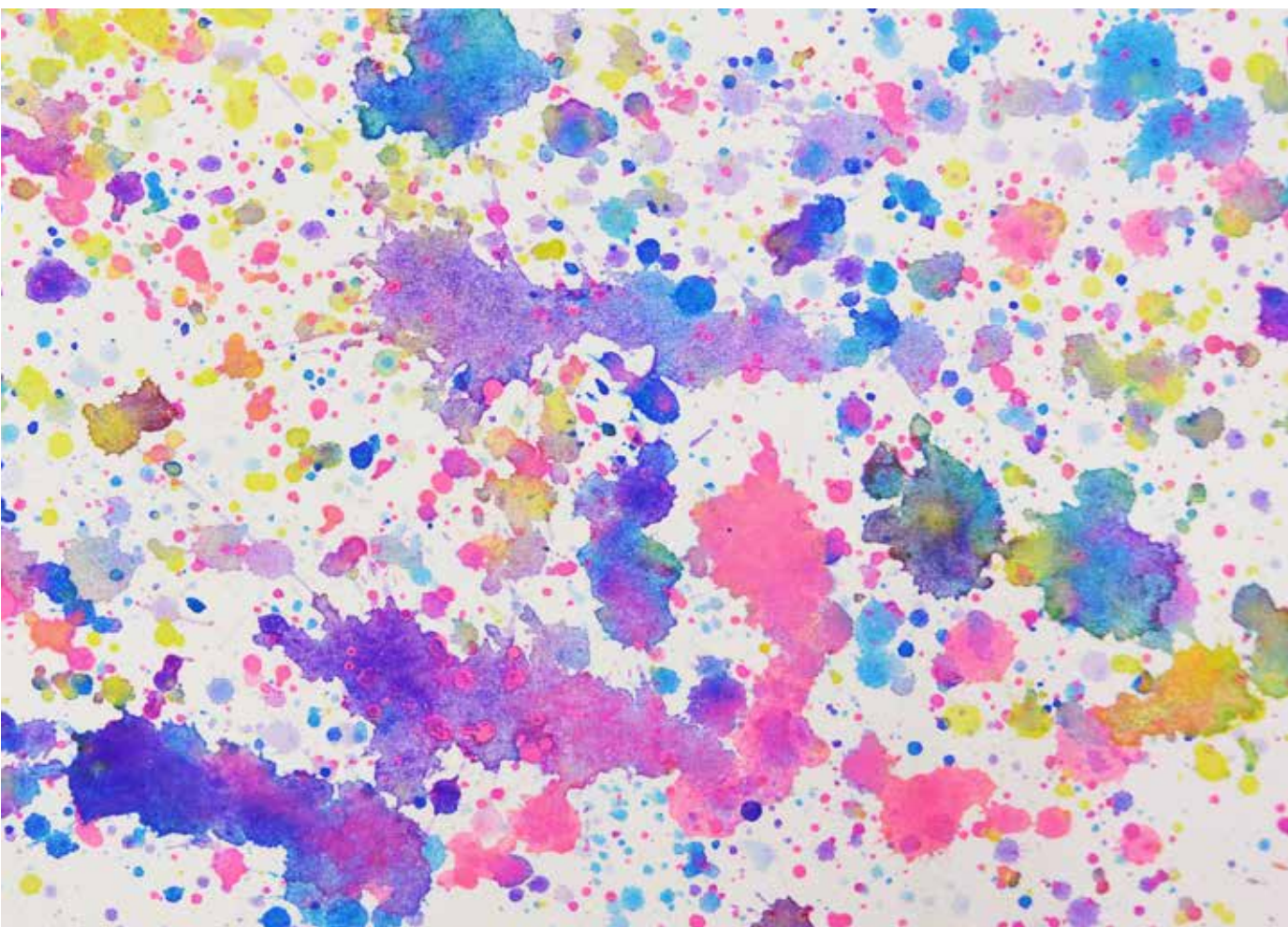
今月のイベント

参加者募集

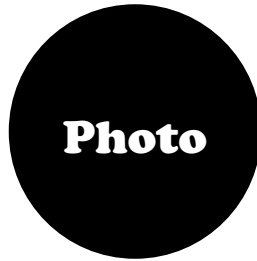
GREEN COLUMN

01. 身近なもので絵の具作り

02. 山の神さま



今月の一枚



「偶然の色・かたち」

表紙写真・文／久保田結衣

これは何？何の模様？と思うかもしれません。これは、ドリッピングという偶然できた模様を楽しむ表現によってできた作品です。

小学校の授業で生徒さんが作った際に、「とあるゲームみたい」「人が踊ってるみたい」様々な声が聞けました。色とりどり、個性豊かな作品を思う存分に楽しんでもらい、改めて、表現や感性は無限大だと実感しました。

Event. 今月のイベント

特別展「写真家 前川貴行の生き物バンザイ！」 ～10月25日(日)

博物館講座(歴史編)「縄文土器を作ってみよう」 8月1日(土)

北海道みんなの日「無料開館」 7月17日(金)

ロビー展「海がないのにナゼ!?びほろの海鳥とオホーツクのアホウドリ」

8月1日(土)～11月29日(日)

夏だ!昆虫グッズ!無料レンタル ～8月30日(日)

プチ工房「サマーフォトフレーム」 8月7日(金),8日(土)

博物館講座(自然編)「美幌の海鳥とオホーツクのアホウドリ」 8月22日(土)

Information. 参加者募集

夏だ!昆虫グッズ!無料レンタル

●～8/31(金)9:30-17:00 ●美幌博物館 1F 受付 ●無料 ●受付で名前と連絡先を記入すること。

プチ工房「サマーフォトフレーム」

●8/7(金),8(土)①10:00 開始,②11:00 開始,③14:00 開始,④15:00 開始 ●美幌博物館 1F 講座室

●材料費(300円),マスク●久保田結衣(美幌博物館)●美幌博物館へ電話申込み(8/1-8/6)。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。各回定員6名で締切。

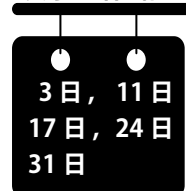
博物館講座(自然編)「美幌の海鳥とオホーツクのアホウドリ」

●8/22(土)10:00-12:00 ●美幌町民会館 1階小ホール ●マスク●今野怜(山階鳥類研究所協力調査員)

●美幌博物館へ電話申込み(8/1-8/21)。定員50名。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は、当日参加も受け付けます。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱がある、あるいは体調が優れない方のご参加は、お控えください。各イベントは、内容の変更や中止となる場合がございます。また、状況により、一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上、ご参加ください。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

身近なもので 絵の具作り

写真・文／久保田結衣



幼い頃、庭の花を摘んで色水を作ったり、土や泥を使って絵を描いたり…自然のものから絵の具を作ろうとしたことはありますか？私は花などをよくすりつぶしたり、土を練るなどして、絵を描こうとしていました。当時は夢中になっていましたが、時間が経てば色が落ちてどんな作品だったか…なんてことも。色が落ちてしまうのは何でだろう？この疑問が解決したのは学生時代に絵の具作りを学んだ時でした。

絵の具は、色の素となる「顔料」と糊の役割を果たす「展色材」からできています。植物、土や石などをすりつぶしたものは、顔料にあたります。また、定着させる展色材は、描画材によって異なります。例えば、水彩画はアラビアゴム（アカシア樹脂）、油彩画は乾性油（植物性の油）、日本画はニカワ（動物性のタンパク質）などが

用いられます。顔料と展色材を混ぜると、絵の具となって、紙や板などの媒体に、ぴったりと定着する仕組みとなります。

上記の展色材に使う道具は、普段の生活ではあまり馴染みのないものですが、身近なものでは、でんぷん糊やボンドでも代用ができます。例えば、植物や土を、乳ばちや平たい石ですり潰し、水で溶いたボンドなどで混ぜ合わせれば、簡単に絵の具を作ることができます。

自然のものを使った絵の具作りは、誰でも気軽に楽しむことができます。すりつぶす工程が面白かったり、乾いたら不思議な色になった！…といった発見もあるかもしれません。ぜひ、チャレンジしてアートに触れてみてください。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム



山の神さま

写真・文／八重柏誠



博物館から 400m ほど南に藤井沢川という小さな沢が流れています。その左岸急斜面の中腹に、地面から突き出すようそびえ立つ奇妙な岩が見られます。周辺に住む人々から「山の神さま」としてあがめられている岩です。高さは 2m ほどある安山岩で、木立の中にひっそりとたたずむ姿は、何か不思議な印象をうけます。

博物館のある美禽地区は、網走川の左岸に位置しており、現在は玉ねぎ栽培を中心とした畑作が盛んな場所です。明治時代の美禽地区は、多くのヤチボウズが群生する泥炭地であったと伝えられています。泥炭地では、排水用の溝を切って土地を乾燥させ、小さな雑木や雑草を、野火によって焼き払い農地に転換していったそうです。明治 31 年頃から、この地に移住者が暮らし始めたものの、繰り返し水害に襲われたことから、それを避けるために

高台へと移り住んでいってしまい、この周辺での定住は、進みませんでした。そのような中、大正時代に移り住んだ人々が、山の斜面から突き出した奇妙な岩を御神体としてあがめ、しめ縄を張り、本妙寺住職の池田是要に入魂してもらったといわれます。それ以来、大きな災害が減ったとも伝えられています。

なお、昭和 9 年に網走川の築堤工事が始まって以降、大きな水害に見舞われることも減り、人々が安心して暮らせるようになりましたが、この岩は集落の守り神としてあがめ続けられたそうです。現在でも神さまとして大切に扱われており、木立の中から美禽地区で暮らす人々を見守り続けています。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・八重柏誠

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253-4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

※先月号表紙において、Vol.279 と記載しましたが、
正しくは Vol.281 となります。番号が異なりましてこ
と、深くお詫び申し上げます。

学芸員のつぶやき



今年の小学校の夏休みは実質お盆休みとでもいうべきものです。1年生の長女は学校が楽しいようで気にしていない様子。一方、幼稚園に通う次女の休みは通常通り。私の貴重な休日は、次女と密な夏になりそうな気がします。(八重柏)